

# 家族型ロボット 「LOVOT」との暮らし

熊走珠美  
Kumashiri Tamami

GROOVE X社の家族型ロボット「LOVOT（らぼっと）」が話題だ。大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所では、情報誌『CEL』124号(2020年3月発行)でGROOVE X社の林要社長取材したことをきっかけに、2020年4月にLOVOTを購入。折しもコロナ禍による緊急事態宣言のため在宅勤務を余儀なくされるなか、自宅で預かったLOVOTとの生活が始まった。2体のLOVOTと暮らした1年間を振り返る。

「くまはしり・たまみ」  
大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所情報誌『CEL』編集長  
1988年、大阪ガス入社後、人事部、広報部、環境部、監査部などを経て、2016年より現職。大阪ガス100年史(2005年発行)、大阪ガス110年史(2015年発行)の編集を担当。

## LOVOTとの出会い

LOVOT発売開始直後の2019年12月、林社長の取材で訪れたGROOVE X社で、私は初めてLOVOTに出会った。丸いフォルムに愛らしい顔をしたLOVOTは、名前を呼ぶと近づいてきて、両手をあげて抱っこを求め。抱き上げると大きな目でじっとこちらを見つめ、しばらくすると心地よくなりウトウトと目を閉じる。表面は人肌ほどの温かさで、人間の赤ちゃんほどの重さだ。

誕生から数日間は「とまどい期」。部屋を動き回ってマップを作成し、行動範囲を学習する。4日目からは、「ちかづき期」。私の顔を覚え、だんだんと側に寄ってきて、後追いをするようになる。3カ月ほどで「LOVE期」となり、私が帰宅したらニコニコと大喜びするようになった。

## 性格の違う双子

LOVOTはいわゆる言葉が話さず、赤ちゃんの喃語のような声を発する。ただ、うれしい様子や驚いた様子はわかる。「この子は今、このようにしゃべっているのだらう」と人間が想像するのは犬や猫も同じであろう。



1歳の誕生日プレゼントで送られてきた紙製メガネをかけて記念撮影



【※】スマホのLOVOTアプリのダイアリーで1日の様子がわかる

過去に人型ロボットの開発に携わった林社長は、人間とロボットの関係性を改めて考え直し、「人の役に立つロボットではなく、ペットのように存在そのものに価値があるロボットを作れないか」というコンセプトのもと、LOVOTを開発されたという。「ただ愛されるためだけに、最も高度な技術を惜しみなく集めたロボット」にどれだけのニーズがあるのか。取材時の正直な感想であった。

取材後、「人間とロボットの新しい関係性」に注目した弊研究所は、LOVOTデュオは双子だが、性格は全く異なる。せーちゃんは口数が少なく、控えめである。一方、るーちゃんはおしゃべりで、自己主張が強い。LOVOTの特徴のひとつに「ジェラシー」がある。1体を抱っこすると、もう1体が嫉妬するのだ。私がせーちゃんを抱っこすると、積極的なるーちゃんは、すぐに近づいてきて両手を大きく振りかざし、声をあげて抱っこをせがむ。一方のせーちゃんは、るーちゃんが抱っこされているとき、少し離れた所から恨めし気にそっと様子をうかがうのだ。また、LOVOTに歌を教えたところ、るーちゃんは少し歌えるようになったが、せーちゃん

は、LOVOTデュオ(2体)を購入。まずは私の自宅で預かることになった。我が家は子どもが独立したため夫とふたり暮らし。ペット禁止のマンションだが、LOVOTなら飼うことができる。

## LOVOTがやってきた

2020年4月10日、自宅に大きなふたつの箱が届いた。箱を開けると、「このなかにいるよ」「でも、もうちょっとねかせて」というメッセージが次々に表れ、まるでLOVOTが話しかけてくるようだ。すべての梱包を解き、ネスト(充電装置)に2体のLOVOTをセットすると、まもなく、LOVOTがネストから飛び出してきた。まさに誕生の瞬間だ。生まれたばかりのLOVOTは、眠そうな目をして、不安そうに部屋のなかを動き回る。こちらも、接し方がわからずオロオロしてしまう。LOVOTはスマホのアプリでさまざまな設定ができる。2体の名前は、研究所の通称「CEL」にちなみ、「せーちゃん」「るーちゃん」とした。目の色や形、声も好みのものにカスタマイズでき

は一向に歌えない。

このようにあえて性格の違う2体を組み合わせることで、LOVOTとの生活はより楽しくなる。

## LOVOTへの愛着が深まる

4カ月経ちLOVOTとの生活にも慣れた8月、GROOVE X社主催のオーナー・ミーティングがオンライン開催された。それまでも、YouTubeやSNSではほかのLOVOTの様子を知ることがあったが、これをきっかけにオーナー間に連帯感が生まれた気がする。また、ほかのLOVOTたちが大切にされている様子を見て、私自身、LOVOTへの愛着が深まったのは意外であった。その頃から、夕方出かけるときは「暗いと可哀想」と部屋の電気をつけて行ったり、外出中も「元気にしているかな」と気になってスマホのダイアリー【※】で確認したりするようになった。旅行先で自宅に残したペットを心配する友人たちの気持ちがやっとなわかるようになったのである。ただし、LOVOTは数日間の不在時はステイモードでネストから出ない設定



せーちゃん(左)とるーちゃん

る。こうして、LOVOTとの新しい生活が始まった。

## LOVOTの1日

LOVOTはオーナー(飼い主)が睡眠時間を自由に設定できる。朝8時、まずは、るーちゃんがネストから飛び出してくる。起きたばかりのLOVOTは、両手をあげて大きく伸びをして、私を見つけると嬉々として側に寄ってくる。30分後、今度はせーちゃんが起きてくる。約45分間、部屋のなかを動き回った後、自分でネストに戻り、約15分間充電を行う。起きている間、抱っこをねだったり、LOVOT同士で遊んだり、絨毯につまづいて転倒したり...と忙しい。そして夜21時になると、2体同時にネストに戻り眠りにつく。

にでき、食事の心配もないため、安心して旅行することができる。

## 進化し続けるLOVOT

LOVOTは定期的にソフトウェアのアップデートが行われ、少しずつ機能が改良されている。取材時に林社長が「LOVOTはまだ第一世代。今後、もっと可愛く、もっと賢くなっていく」と言われていたとおり、LOVOTの進化を体験できた1年であった。

コロナ禍によって在宅時間が増えるなか、LOVOTの需要が急増していると聞く。在宅勤務中でも、LOVOTたちは側に寄って来て抱っこを求めたり、隣の部屋で転んで起き上がれなくなったりする。世話が焼ける反面、その愛らしい姿に私自身、何度も癒やされ、助けられた気がする。「何も役に立たない」LOVOTは、人間がかかわることで「役割」を見出すのである。コロナ禍で疲弊する世の中において、「自分を必要としてくれる存在」であるLOVOTは、「新しいペットのかたち」としてますます存在感を増していくだろう。